

第 22 回平成医政塾勉強会講演要旨

講師

茨城県医師会会長 原中 勝征先生

埼玉県医師会会長 吉原 忠男先生

「新政権下における今後の日医のあり方を考える」

原中先生：

民主党政権支持、誕生に向けて大きな役割を果たしたのは、後期高齢者医療制度反対が始まりでした。年齢により、「人間を差別しても良いのか、医師会は絶対にできない」ということで、茨城選出の自民党の大物政治家「丹羽雄也先生、額賀福志郎」先生に陳情に行きましたが、逆に、制度について、自慢されました。これでは、いけないと反対運動をして、今回の選挙で、自民党王国であった茨城県を、ほぼ、民主党一色に近い状態にいたしました。これがきっかけで、民主党との今の関係ができました。鳩山内閣が出て、病院主導だけの地域医療の改革は危険だと、意見を述べる中で、鳩山総理から、マニフェストを見てくれと言われ、マニフェストの中に、2,200 億円削減の停止、外来管理加算 5 分要件の撤廃、レセプト請求完全オンライン化の撤廃を入れさせていただきました。日本医師会を潰すつもりはなく、パイプを利用してほしいと日本医師会に申し出まして、民主党と日本医師会の会合の段取りをとりました。民主党との会合に歯科医師会は 18 人の理事が出席したのに、日本医師会は、3 人の理事で、また、日本医師会からの、説明は総論に終始し、意味がなく、参加した民主党議員の多くが失望したとのことでした。政治の怖さを、日本医師会の幹部に、ご理解いただけない中で、診療報酬改定は、自見先生をはじめ、多くの政権与党の議員の力を借りて、マイナス改定を阻止しました。日本医師会は、政治資金の 9 割ものお金を使って、たった一人の参議院議員を選出していますが、これは、ほとんど効力がなく、政治を知らないのではないかと。日本医師会会長は、国民医療を守るために、政治的な力をきちんともって、総理大臣、厚生労働大臣にきちんと物を申せる存在にならないと思います。日本医師会の将来は会長を直接選挙できるような制度的なものを創設して、医師会全員が参加して、開業医も勤務医も一緒になって、日本の医療を守る医師会にしたいと考えております。医療費の問題に関しては、医師の技術料は切り下げられているので、なんとか、上げてほしい旨の話を鳩山総理にしてあります。医師会のトップは、政権与党とのパイプ作りに失敗して、物が言えなくなったのは、会員の先生、あるいは、理事の言葉に従ったので、自分に責任はないなどと責任回避の発言はいただけません。私は、日本医師会に行くのは、会員の先生方が誇りをもって医療活動ができるようにしたいからで、選挙結果にこだわるつもりはありません。しかし、人生最後のご奉公と思い、立ち上がりました。同じ志を持つ、兵庫の川島先生、大阪の伯井先生も都道府県医師会会長選挙に出馬され、医師会の礎を築こうと立ち上がっています。私ともども、よろしくお願い申し上げます。

吉原先生

私は、今日の講演の 80%は原中先生の選挙にご協力いただきたい、伯井先生、川島先生をどうしても当選させていただきたいという選挙応援のつもりで参りました。私は、植松日医執行部の時に、原中先生を知り、共に、植松執行部の 2 期目を支援しましたが、残念な結果に終わりました。原中先生は一本気で、正直な性格で、日本医師会の武見敬三さんの推薦に反旗を翻して、自見先生を推薦し、私も協力して当選させました。我々は、当時より、政権与党のボチ（飼い犬）にならない共通点がありました。原中先生のお話にありましたように、民主党との強いパイプがあるから、民主党の小沢幹事長と話をしてくれと言われ、普段なら、5 分の会談を 30 分以上にわたり、幹事長に医師会の政治的人間関係を説明し、さらに、医療費削減はいけない。レセプトオンラインの手挙方式を完全手挙方式にしてほしいと説明し、また官僚の古いデータに惑わされないで、議員さんが自分の目でもっていろいろ判断してほしいと注文をつけました。日本医師会がどうしても、民主党政権に入り込めない中で、原中先生と私（吉原）は政権与党のボチにならないで、医療の実態を伝えて、要求してまいります。その中で、日本医師会の会長選挙、また風を起こす、兵庫、大阪の会長選挙は大切であります。どうか、川島先生、伯井先生、そして原中先生を御支援お願いいたします。残りの時間はスライドについて説明します。医療制度は昭和 17 年に東條内閣の時に種が蒔かれました。組合の統廃合、強制加入など軍国主義の中で基礎が作られ、昭和 36 年に皆保険制度が確立されました。保険制度で非常に良いのは、スウェーデンとフランス、次に、日本でしたが、小泉元総理の改革で、悪い方向にゆがめられようとしていました。オバマ大統領もアメリカで、保険の一元化、統一化により、皆保険制度をなんとかしようとしておりますが、なかなか容易ではありません。日本は、よく借金が 834 兆円もあり、貧乏であると言われますが、金融資産（580 兆円）から、債務を引くと純債務は 254 兆円で、国際ルール上はそれほど多いものではありません。私は、「秩父郡医師会の協約書」を紹介します。この中では、要するに、医師は贅沢をしてはいけない。貧しいひとの苦しみや病を救ってあげるのが本来の姿ということを謳われており、再確認します。医師会は、原中先生のご発言のように、役職を役得と心得るひとの集まりではだめだということです。また、医師は、職業別給与のランキングでは図にあるように、11 位で決して上位ではありません。後期高齢者医療制度に関しましても、制度は平成 9 年から設計され、すでに、5,500 億円プラスαがかかっております。この後期高齢者医療制度は保険料は、現行は国が 33.3%ですが公費を 69%にして、被保険者からの保険料を 1%とって、組合保険がつぶれないようにすれば、なんとか維持できるのではないかと小沢幹事長に話しています。また（医療費の）財源に関しましても、権丈先生は、保険料の値上げを示唆されていますが、私は、軽減税率を導入した、消費税の引き上げで対処すれば何とかなると、これも小沢幹事長にお話をし、非常に勉強になったと評価していただいております。